

内水ハザードマップの改定について

1 内水ハザードマップについて

これまで本市では浸水対策として雨水幹線等の下水道施設の着実な整備を進めています。

また、局地的集中豪雨など整備水準を上回る降雨も発生していることから、市民の皆様の防災意識を高め、自助・共助を支援することを目的として、大雨時に下水道管や水路からの浸水が想定される区域や浸水する深さなどをまとめた、内水ハザードマップを平成 26 年、27 年に公表しています。

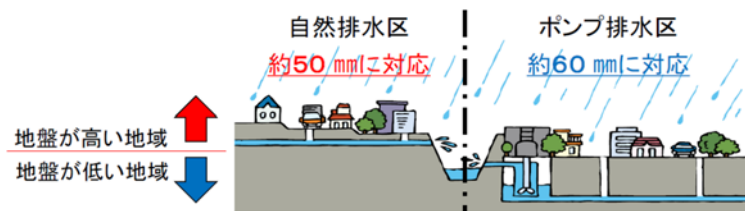


図 下水道の整備水準

2 改定の背景

気候変動の影響により大雨が増加しており、全国各地で毎年のように豪雨災害が発生しています。令和元年9月には、本市においても観測史上最大となる時間降雨量 100 ミリが観測されたことなどを踏まえ、内水ハザードマップの改定を行いました。

3 主な改定内容

	現在公表版	改定版
対象降雨	近年で被害が大きかった実績降雨 (平成 16 年台風 22 号) : 76.5 mm/h	想定最大規模降雨 : 153 mm/h
下水道整備 状況などの 基礎データ	平成 22 年度末時点	平成 30 年度末時点

※想定最大規模降雨：1999 年に千葉県香取市で観測された降雨量

4 今後のスケジュール

6 月 28 日 横浜市ウェブサイトにて改定した内水ハザードマップの公表を開始

内水ハザードマップ 横浜市 検索



5 配布について

市民の皆様にとって、より利活用しやすいハザードマップとなるよう、内水、洪水、高潮のマップを 1 冊にまとめた「浸水ハザードマップ」として配布します。

令和 3 年度は、神奈川区と金沢区、令和 4 年度に残りの 16 区で全戸配布をする予定です。

担当：環境創造局下水道計画調整部下水道事業マネジメント課
山崎、伊藤、室屋
電話：045-671-2838

情報面イメージ

マップの公表にあわせて、情報の入手方法や事前の備え、避難の考え方などを示した情報面もウェブサイトに掲載します。

<情報の入手方法>

自動配信されるもの (PUSH型)

- **横浜市防災情報Eメール 要事前登録**
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報等が配信されます。
- **防災アプリ 要事前登録**
「Yahoo! 防災速報」アプリをインストールしていただくことで、横浜市からの防災情報等をスマートフォン等で受信できます。 [アプリをインストール](#)
- **ファックス**
聴覚障害者の方の自宅 (**要事前登録**)、高潮及び洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配信します。
- **緊急通報メール**
緊急通報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- **親水拠点警報装置**
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生の危険性や避難情報をお知らせします。
- **緊急警報放送**
テレビラジオ等から警報音を発し、重要かつ緊急な災害情報を放送します。
- **広報車等による広報**
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出勤します。また、職員を派遣したり、消防局ヘリコプターを出勤させることもあります。



自身で情報収集するもの (PULL型)

- **ホームページ**
横浜市 防災情報
気象警報や河川の水位、潮位等を確認することができます。
[横浜港](#) [防災情報](#)
- **レインアイよこほま**
雨量データ等を確認することができます。
[レインアイ](#)
- **降水ナウキャスト**
現在の雨雲の動きや今後の動きを確認することができます。
[ナウキャスト](#)
- **横浜市トップページ (緊急情報)**
- **Twitter (横浜市防災Twitter) @yokohama_saigai**
- **テレビ** ● **ケーブルテレビ** ● **データ放送**
- **tvk (テレビ神奈川) データ放送** ● **ラジオ** ● **コミュニティFM放送**



<事前の備え>

ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
- 自宅から避難場所までの複数の道順や方向を、ハザードマップに書き込みましょう。鉄道や道路を渡る場所を確認しましょう。
- なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります (ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
- 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。



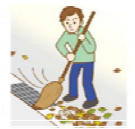
避難時の持ち出し品を確認しよう

- 避難時の持ち出し品は口頭から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
- 持ち出し品はできるだけ少なくしましょう (ラジオ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックサックなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
- 避難場所には食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。



側溝や雨水ますを点検しよう

- 側溝や雨水ますをふさがないようにしましょう。
- 雨水ますの取込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
- 雨水ますやL型側溝の上に車乗り入れブロックなどを置かないようにしましょう。



浸水に備えよう

- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用した水のうなどを使って浸水を防ぐことができます。
- 大雨の際には、洗濯機、トイレ、高層階の排水口など思わぬところから下水が逆流することがあります。排水口を水のうなどでふさぎましょう。



家庭でできる浸水防止対策の一例

ごみ収集袋 (45リットル) を二重にし、中に半分くらい水を入れ、水のうを作ります。

水のうは段ボール箱に貼ることで、強度が増します。

水のうと長めの板などを組み合わせ、浸水を防ぎます。

プランターをならべ、レジャーシートで包み浸水を防ぎます。

<避難の考え方>

避難の考え方

- 身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

安全な場所へ避難 (水平避難)

(避難場所[※]、近くの高台、土砂災害警戒区域外の親戚の家など)
※すべての避難場所を開設するわけではありません。(ハザードマップ参照) 避難する前にどの避難場所が開設されているか、市・区ホームページ等で確認してください。



頑丈な建物の2階以上または、近隣の高い建物へ避難 (垂直避難)

浸水深が速くても水の流れによっては歩行が困難となります。無型をして屋外へ避難せず、高所へ垂直避難をしましょう。



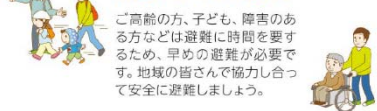
建物内の安全な場所で待機 (屋内退避)

(夜間や危険が差し迫っている場合など、屋外へ避難するとかえって危険な場合)



隣近所へ声をかけ合おう

ご高齢の方、子ども、障害のある方などは避難に時間を要するため、早めの避難が必要です。地域の皆さんで協力し合って安全に避難しましょう。



安全な経路で避難しよう

河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて避難しましょう。大雨により、側溝やマンホールの蓋が外れている場合があるので、転落しないよう十分に注意して、近寄らないようにしましょう。



地下街・地下施設の浸水は危険です

浸水の危険性があると感じたときは、速やかに地上階に避難しましょう。

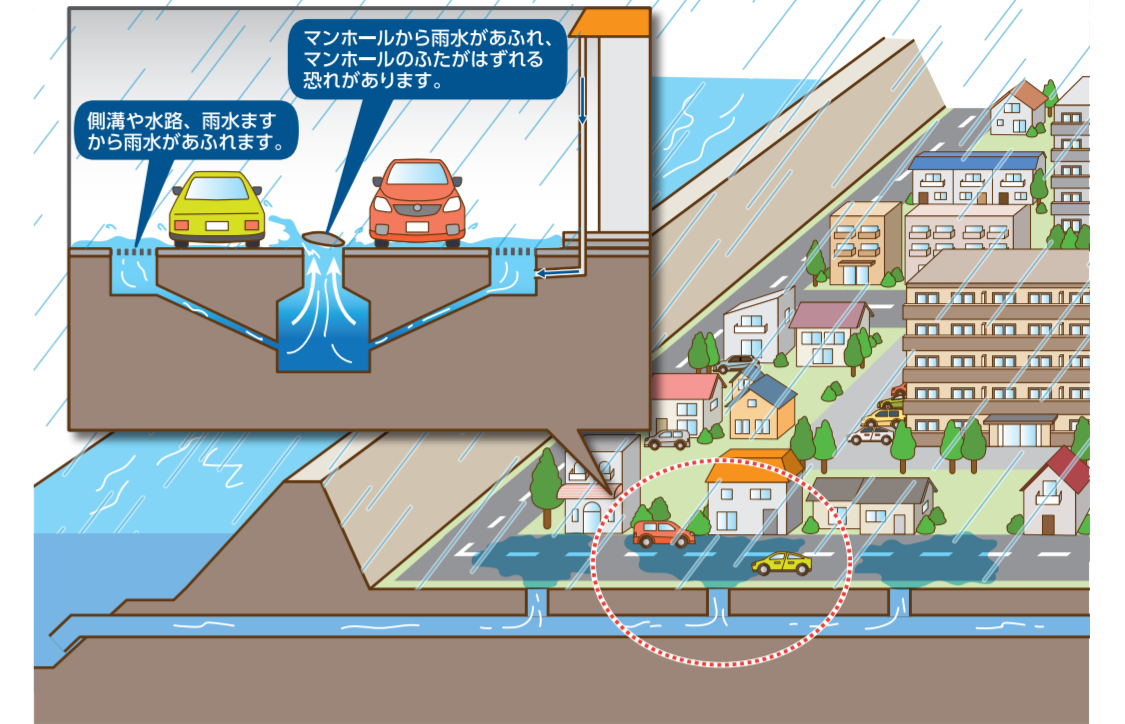


浸水ハザードマップより抜粋

旭区内水ハザードマップ

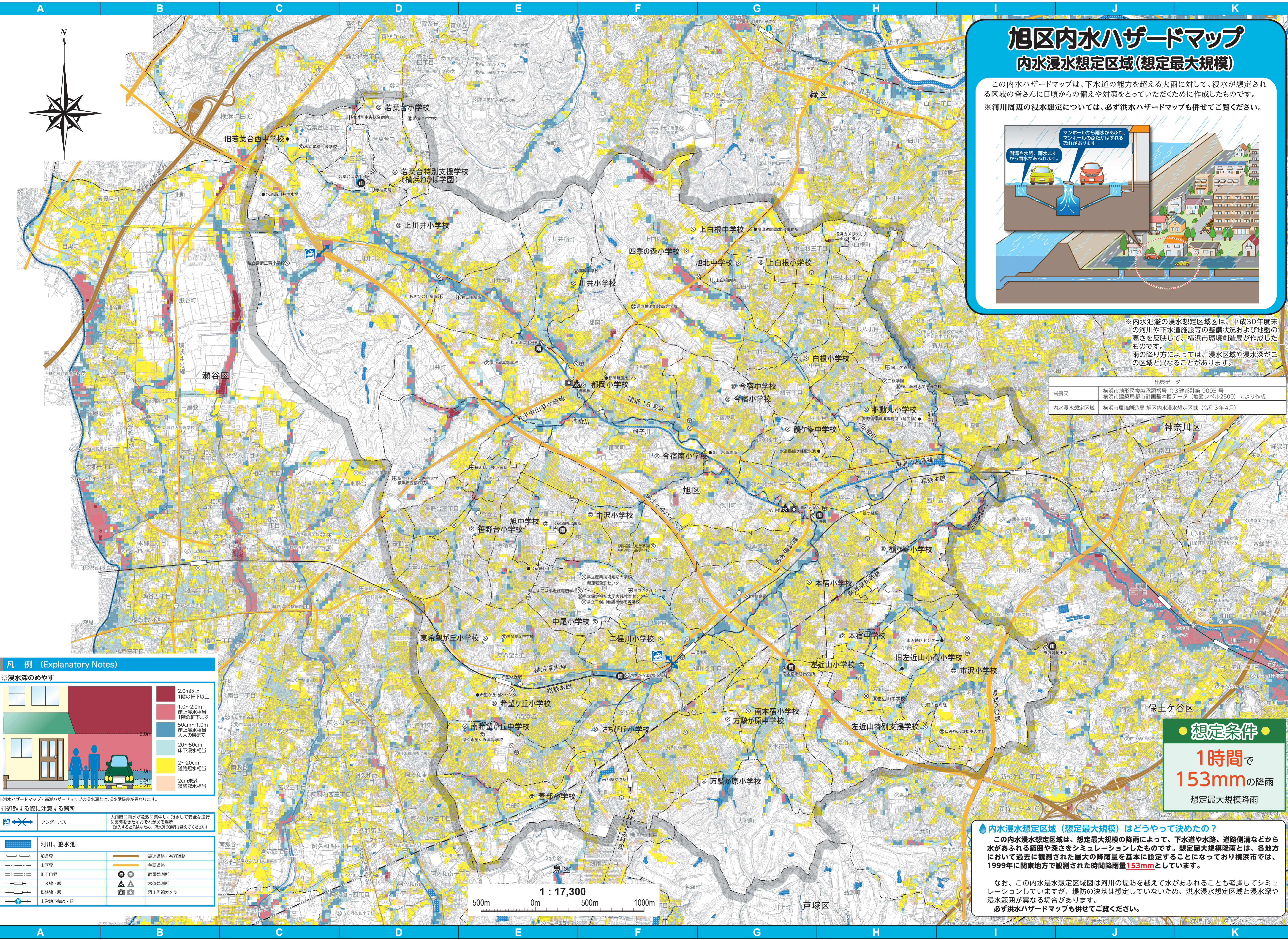
内水浸水想定区域(想定最大規模)

この内水ハザードマップは、下水道の能力を超える大雨に対して、浸水が想定される区域の皆さんに日頃からの備えや対策をとっていただくために作成したものです。
 ※河川周辺の浸水想定については、必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。



※内水氾濫の浸水想定区域図は、平成30年度末の河川や下水道施設等の整備状況および地盤の高さを反映して、横浜市環境創造局が作成したものです。
 雨の降り方によっては、浸水区域や浸水深がこの区域と異なることがあります。

出典データ	
背景図	横浜市地形図複製承認番号 令3建都計第 9005 号 横浜市建築局都市計画基本図データ(地図レベル2500)により作成
内水浸水想定区域	横浜市環境創造局 旭区内水浸水想定区域(令和3年4月)



凡例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす

	2.0m以上 1階の軒下以上
	1.0~2.0m 床上海水相当 1階の軒下まで
	50cm~1.0m 床上浸水相当 大人の腰まで
	20~50cm 床下浸水相当
	2~20cm 道路冠水相当
	2cm未満 道路冠水相当

※洪水ハザードマップ・高潮ハザードマップの浸水深とは、浸水階級が異なります。
 ◎避難する際に注意する箇所

	河川、遊水池		高速道路・有料道路
	都県界		主要道路
	市区界		雨量観測所
	町丁目界		水位観測所
	JR線・駅		河川監視カメラ
	私鉄線・駅		
	市営地下線・駅		

●想定条件●
1時間
153mmの降雨
 想定最大規模降雨

◆内水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？
 この内水浸水想定区域は、想定最大規模の降雨によって、下水道や水路、道路側溝などから水があふれる範囲や深さをシミュレーションしたものです。想定最大規模降雨とは、各地方において過去に観測された最大の降雨量を基本に設定することになっており横浜市では、1999年に関東地方で観測された時間降雨量**153mm**としています。
 なお、この内水浸水想定区域図は河川の堤防を越えて水があふれることも考慮してシミュレーションしていますが、堤防の決壊は想定していないため、洪水浸水想定区域と浸水深や浸水範囲が異なる場合があります。
 必ず洪水ハザードマップも併せてご覧ください。

